

副大臣会議の初会合に出席する辻元副国土交通相（左端）と馬淵副
国交相（中央）ら―首相官邸で18日午後9時1分、武市公孝撮影



副大臣も能力重視

鳩山内閣は18日、「政治主導」の政策決定システムを始動させた。閣議案件を事前審査する事務次官会議は「官僚主導の象徴」として廃止。それに代わる「閣僚委員会」で協議し閣議決定された今年度補正予算の一部執行停止方針が、鳩山由紀夫首相の指示として各省庁に下ろされた。

閣僚とともに「政務三役」としてチームを組む副大臣・政務官も18日決まった。中堅・若手から多くの政策通を起用したのが特徴だ。中でも馬淵澄夫副国土交通相は耐震偽装問題の追及で頭角を現し、道路整備中期計画のずさんな積算を指摘するなど国交省追及の急先鋒として知られる。

日本が変える

国交省に「ミスター道路」

ダム事業の見直しを打ち上げた前原誠司国交相に続き「ミスター道路」の馬淵氏が乗り込むことになった国交省。社民党の論客、辻元清美氏も副国交相となり、嵐の予感が省内に募る。18日夜、「敵陣」に初登庁した馬淵氏は「国土交通行政に取り組み皆さんの立場から、実際に実施できる具体的な方法に取り組んでいきたい」と記者団に語り、まずは協調姿勢を示した。

ほかにも、日銀出身の大塚耕平副内閣相▽民主党の温暖化対策をまとめた福田哲郎副外相ら専門家が並んだ顔ぶれは、閣僚以上に「派閥順送り」で決められた自民党政権時代からの様変わりを感じさせた。（5面に副大臣の略歴と政務官名簿）